

永平寺キャンパスゲートブリッジ塗装改修工事

図面番号	図面名称
A-01	建築改修工事特記仕様書(その1)
A-02	建築改修工事特記仕様書(その2)
A-03	建築改修工事特記仕様書(その3)
A-04	建築改修工事特記仕様書(その4)
A-05	建築改修工事特記仕様書(その5)
A-06	配置図、付近見取図、仕上表
A-07	平面図、立面図
A-08	矩計図(1)
A-09	矩計図(2)
A-10	天井伏図

1工事概要

(R3.7改訂)

1.工事名

永平寺キャンパスゲートブリッジ塗装改修工事

2.工事場所

福井県吉田郡永平寺町松岡美定島4-1-1

3.敷地面積

-

4.地域・地区の指定

5.建物概要

様名称	構造・階数	延べ面積 (m2)	備考
ゲートブリッジ	S造 (立体トラス)	214	塗装改修

建築基準法上の用途 () 耐火の種別・耐火・準耐火・その他

6.積雪荷重等

最深積雪量 (200) cm×3.0N/m2(単位積重) = (6000) N/m2
基準風速 V0(m/s) 3.0 3.2
地表面粗度区分 (1・2・3・4)

7.別働工事

2建築工事仕様

1.共通仕様
(1) 図面および特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築改修工事標準仕様書 (建築工事編) (令和4年版)」 (以下、「改修標準仕様書」という。) により、改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) (令和4年版)」 (以下、「標準仕様書」という。) による。
(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、「公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編) 」および「公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) 」を適用する。
(3) 設計変更の対象事項および手続ならびに工事一時中止に係る手続き等は、「工事請負契約等におけるガイドライン (総合版) 」 (福井県土木部) による。

2.特記仕様
(1) 項目は、○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は○印の付いたものを適用する。○印が付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。
(3) 特記事項に記載の () 内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図または当該表を示す。
(4) 特記事項に記載の () 内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図または当該表を示す。
(5) [G]印は、「福井県庁グリーン購入推進方針」 (以下「グリーン方針」という。) の重点品目を示す。
(6) [国]印は、「福井県公共事業環境配慮ガイドライン」の施工段階における環境配慮事項を示す。 (対象工事は、施工計画書の提出が必要な工事)
(7) 改修標準仕様書および標準仕様書で「特記がなければ、」以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令の改正等により (条件を含む。) 抵触する場合には、関係法令等の遵守 [1.1.13] の規程を優先する。

章

項目

特記事項

1各章共通事項

1適用基準等
※建築工事標準詳細編 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 (令和4年版)
・建築解体工事共通仕様書 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 (令和4年版)
・建築設備設計基準及び同解説 建設大臣官房官庁営繕部監修 (平成10年版)

2電気保安技術者
・適用する [1.3.3]

3施工条件
下記以外は現場説明書による。 [1.3.5]
工期中 ○執務並行改修・建物無人 (執務者無し) 改修
・図示 (・工所用車両の駐車場所・資機材置場・建設発生土仮置場・)

4発生材の再資源化等 [環]
本工事は「福井県建設リサイクルガイドライン」の対象建設工事である。 [1.3.11][1.3.12]
工事着手時に再生資源利用計画書および再生資源利用促進計画書を、工事完了時に同計画書の実施書 (書式は同一) を作成し、監督職員に提出する。
・現場において再利用するもの ()
・発注者に引渡しを要するもの (※金属屑・)
・特別管理産業廃棄物
発生材の種類 処理方法
・塵アスベスト等
・PCB含有物
・PCB含有シーリング材
・発生材の分別解体及び再資源化
・本工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」 (平成12年5月31日 法第104号) の対象建設工事であり、分別解体等および特定建設資材の再資源化等について適切な処置を行う。
ただし、工事契約後にやむを得ない事情により予定した条件により難しい場合は監督職員と協議する。
分別解体、再資源化の完了時に、再資源化が完了した年月日、再資源化した施設の名称および所在地、再資源化に要した費用を書面にて監督職員に報告する。
再資源化等をする施設
指定副産物の種類 再資源化等をする施設の名称 所在地
・コンクリート
・アスファルト・コンクリート
・建設発生木材
・建設発生土 (土工事に記載)

・指定副産物以外の搬出 ※構外搬出適切な処分

5建設機械 [G][環]
「排出ガス対策型建設機械指定要領」 (国土交通省) による排出ガス対策型建設機械の使用を原則とする。また、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」 (国土交通省) による超低騒音型建設機械を使用するよう努力する。 [1.4.1~1.4.3]

6建築材料等
本工事に使用する材料は、設計図書に規定する所要の品質および性能を有するものとし、JISおよびJASマーク表示のない材料およびその製造業者等は、次の1)から6)の事項を満たすものとする。
1) 品質および性能に関する試験データが整備されていること。
2) 生産施設および品質の管理が適切に行われていること。
3) 安定的な供給が可能であること。
4) 法令等で定める許可、認可、認定または免許を取得していること。
5) 製造または施工の実績があり、その信頼性があること。
6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質および性能を有することの証明となる資料、または外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。
また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品または同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受けること。

7環境への配慮

資材の梱包および容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さおよび廃棄時の負荷低減に配慮されていること。
なお、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料評価名簿」 (発注年版) および福井県工業技術センター、福井県総合グリーンセンター、工業技術センターで評価された材料とする。
工事材料や物品等の調達においては、福井県内に主たる営業所を所有する者の中からの調達および県産品の活用に努める。なお、「県産品使用実績報告書作成要領」 (土木部建築住宅課営繕室制定) に基づき、工事完成時に同報告書を監督職員に提出する。
「グリーン方針 (最新版) 」の公共工事調達計画に基づき、重点品目を調達する。
工事完成時にグリーン購入調達記録表を監督職員に提出する。
製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明書を監督職員に提出する。 (平成18年9月29日付土管第1197号)
福井県間伐材認証制度の指定事業者の製品の使用に努める。
地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示板を設ける。表示板は、県内間伐材を材料とする本製看板とし、工事名称、発注者名、受注者名、連絡先等を簡明に示す。

化学物質を放散させる材料
本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質および性能を有するものとし、次の1) から5) を満たすものとする。
1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材および塗膜はホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。
2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒドおよびスチレンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。
3) 接着剤はフタル酸ジエーテルおよびフタル酸ジ-2-エテルヘキシルを含有しない難燃性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。
4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。
5) 1) 、3) および4) の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。
ホルムアルデヒドの放散量 該当する建築材料
規制対象外 1) JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品
2) 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品
3) 下記表示のあるJAS規格品
a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用
b. 接着剤等不使用
c. 非ホルムアルデヒド系接着剤およびホルムアルデヒドを放散しない材料使用
d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
e. 非ホルムアルデヒド系接着剤およびホルムアルデヒドを放散しない塗料使用
f. 非ホルムアルデヒド系接着剤およびホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
第三種 1) JISおよびJASのF☆☆☆☆規格品
2) 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品
3) IBJISのEo規格品
4) IBJASのFco規格品

アスベスト含有建材 [1.4.1]
本工事に使用する材料については、標準仕様書1.3.11(2) に準じて、JIS Z 7253による安全データシート (SDS) 等により確認を行い、アスベスト含有建材を使用しない。

改修標準仕様書・標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。また「証明工法による」と特記されたものについては、建設技術審査証明協議会の会員による審査証明または、 (一財) 日本建築センター、建設技術研究センターで証明された工法とする。

施工計画調査 [1.5.1]
調査項目
調査範囲 ※図示・ 調査方法 ※図示・
施工数量調査 [1.5.2]
調査項目・防水改修○外壁改修
調査範囲 ※図示・ 調査方法 ※図示・
既存部分の破壊を行った場合の修補方法 ※図示 [1.5.3]

10技能士
下記の職種について、○印の付いたものは適用し、それ以外は適用するよう努める。 [1.6.2]
適用工事種別 技能検定の職種
仮設工事 ○とび
防水改修工事 ・アスファルト防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業
○フレタゴム系塗膜防水工事作業 ・FRP防水工事作業
・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・シーリング防水工事作業
・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ○建築板金 (内外装板金作業)
・改質アスファルトシートローテータ工法防水工事作業
・樹脂接着剤注入施工 ・左官 ・タイル張り
外壁改修工事
建具改修工事 ・サッシ施工 ・ガラス施工
内装改修工事 ・建築大工 ・内装仕上げ施工 (鋼製下地工事作業) ・左官
○建築板金 (内外装板金作業) ・プラスチック系床仕上げ工事作業
○ボード仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業
・表装 (壁装作業) ・タイル張り ・畳工
塗装改修工事 ○塗装 (建築塗装作業)
耐震改修工事 ・鉄筋施工 (鉄筋組立て作業) ・型枠施工
・コンクリート圧送施工 ・鉄工 (構造物鉄工作業) ・とび
環境配慮改修工事 ・配管 (建築配管作業) ・消滅ペイントマーカー工事作業 ・造園

11.室内空气中の化学物質の濃度測定 [1.6.9]
施工完了時に室内空气中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン (学校の工事の場合は、ホルムアルデヒド、パラクロロベンゼン、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン) の濃度を測定し、報告すること。
測定はパンプ式採取機器により行う。
測定対象室および測定箇所数 測定時期 (※完成前・) 測定箇所数

福井県営繕工事監督事務処理要領 (土木部公共建築課制定) による。 [1.1.4~1.1.5]
また、工事実績情報サービス (QRINS) の登録対象 (請求金額500万円以上) になった場合には、受注・変更・完成・訂正時に速やかに登録する。
本工事が公共事業労務費調査の工事対象になった場合、同調査に對して必要な協力をし、工期経過後においても、同様とする。

情報共有システム
※利用しない (ただし、受注者より利用したい旨の申し入れがあった場合は、発注者はこれを承諾する。)
・利用する (情報共有システム運用ガイドライン (案) 福井県版を基に、福井県仕様様のシステムに登録し利用すること。)

請負者は施工体制台帳および施工体系図を作成し、工事現場に備えるとともに監督職員に提出する。請負者は監理技術者、主任技術者 (下請負を含む) の工事担当技術者台帳を作成し、施工体制台帳または施工計画書に添えて監督職員に提出する。
監理技術者、主任技術者 (下請負を含む) は工事現場内では名札を着用する。

下請負人を選定する場合には、福井県内に主たる営業所を有する者の中から選定すること。ただし、あらかじめ書面による承諾を受けた場合は、この限りではない。 (福井県建設工事元請下請関係適正化指導要綱第7条)

施工図の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

監督職員の指示による。 [1.7.2]

※本工事は電子納品対象工事とする。
1) 電子納品とは、工事における各段階の最終成果を電子データで納品することを用いる。ここでいう電子データとは、「電子納品の手引き (案) 福井県版」 (以下「要領等」という。) の最新版に基づいて作成されたものを指す。
2) 要領等に基づいて作成した電子データを電子媒体 (CD-R) で2部提出する。
要領等で特に記載のない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、要領等の解釈に疑義がある場合は、監督職員と協議のうえ電子化の是非を決定する。
3) 工事成果品の提出の際には、電子納品チェックシステムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウイルスチェックを実施したうえで提出する。
4) 完成検査までに (公財) 福井県建設技術公社に電子納品保管管理システムの登録料を支払い、完成検査終了後正を監督職員に、副を (公財) 福井県建設技術公社に提出する。
○本工事は電子納品対象工事としない。
ただし、「完成図」「完成写真」「工事写真」については電子データを提出すること。その他の資料およびファイル形式等については監督職員と協議する。

18.電子納品の対象
必須納品資料を下表に示す。
必須納品資料以外については監督職員と協議する。

フォルダ名称	資料大分類	資料小分類	ファイル形式
MEET	打合せ簿	工事打合書	(注1)
MATERIAL	機材関係資料	試験成績書 (機材関係)	(注1)
PROCESS	施工関係資料	試験成績書 (施工関係) ・工事進捗状況報告書 出来形成果表	(注1)
SALVAGE	発生材関係資料	再生資源利用促進実施書 (様式1・様式2)	(注1)
DRAWING	完成図	完成図、設計変更図	※SXF (sfc) 形式及び ※CADの標準形式
MAINT	保全に関する資料	主要機材一覧表、官公署図書一覧表、官公署 届出書、保全説明書	(注1)
OTHS	契約関係資料	現場指示書、県産品使用実績報告書 グリーン購入調達記録表	(注1)
	完成写真	※完成写真 (600万画素程度) (注2)	JPEG形式
(注3)	工事写真	※工事写真 (着工時・施工中) (100万画素程度)	JPEG形式

注1：MS-EXCEL、MS-WORDおよびPDF形式とする。
注2：完成写真は電子画像のもの、[○四つ切○キャビネ版] のプリントを () 部提出する。
注3：フォルダ構成は「営繕工事写真撮影要領第2.8年版」 (国土交通省大臣官房官庁営繕部) による。

19.完成時の提出図書等
標準仕様書による完成図を作成し、監督職員に下記より提出する。
電子納品によるほか、提出部数および作成様式等は下記の通りとする。

種類	原図	製本	備考
区分			
※変更設計図	1部	—	
※完成図	1部 (注2)		
※保全資料	—	2部	
・長期保全計画書	—	2部	

注1 原図は施設毎に図面ホルダーに収納する。
2 完成図白複製本A1版 (※1部・) 部、A3版3部を提出する。
3 青表紙を入れること。

20.設計図のコピー
○設計図白複製本 A1版 () 部、A3版 (3) 部を提出する。
・図示・前面道路中心 (最高) +300mm ※監督職員の指示による。

特記事項中、責任施工の指示があるものは請負人および専門事業者 (防水工事においては所属する組合または材料メーカーを加える) の連帯責任とし、保証書を監督職員に提出する。

本工事の請負者を労働安全衛生法第30条第2項に基づく特定元方業者に指名する。

購入土・砕石を使用する場合には事前に品質を証明する資料、採取地を示す書類、採取許可等の写しおよび採取業者からの納品証明書など適法に採取していることを示す書類を監督職員に提出する。 (H16土管第1481号)

○本工事は一年点検対象工事とする。
受注者は、「県有施設一年点検実施要領」 (土木部建築住宅課営繕室) に基づき一年点検を実施し、報告書を作成する。
施工に起因する不良箇所があれば改修する。

※評定する (請負金額500万円以上の場合)
・評定しない (請負金額500万円未満の場合)
・評定しない (応急工事、取壊解体工事、土砂運搬工事、什器類設置工事、軽微な内装工事等)

密接に関係のある同一工事区域内の追加工事 (同一工程とは限らない) を現工事と同一施工業者が落札した場合は、両工事を合計したもので落札後調整を行う

28.設備工事との取合い

工 事 内 容		建築	電気	機械	
設備機器基礎等	屋内設置		○	○	
	壁上設置	○			
	屋外設置		○	○	
	床台、アンカーボルト		○	○	
設備開口部	特記した基礎 下地補強	○			
	S、S・RC造梁の貫通部	補強	○		
		スリーブ	○		
	RC造梁・床・壁の貫通部	補強	○		
		スリーブ		○	○
	型枠	○			
	軽量鉄骨下地天井・壁の開口部	補強	○		
		補強を要する切込み	○		
		補強を要しない切込み		○	○
		貫通部・開口部の穴埋め補修		○	○
その他	貫通部・開口部の差し出し		○	○	
	床、天井点検口	○			
電気配管配線	防油堤	○			
	外部取付ガリ	ダクト、チャンバーの接続用フランジを含む	○		
	雨水排水	配管、樹、蓋	○		
	汚水、雑排水	配管、樹、蓋		○	
電気配管配線	機器 (建築工事に含む) 等へ直接接続する配管配線		○		
	機器 (建築工事に含む) 付属の制御盤以降の配管配線 (接地共)	○		○	
電気配管配線	機器 (建築工事に含む) 付属の制御盤への電源供給配管配線		○		
	機器 (建築工事に含む) と専用スイッチの連り配管配線	○		○	
	パッケージ型空気調和器の2次側配管配線 (接地共)			○	

2.騒音・粉じん等の対策
・防音パネル
・防音シート
防音パネル等を取り付ける足場等の設置位置・

2足場その他
外部足場 ○設置する (設置範囲 ○工事に必要な範囲・) [2.2.1]
・設置しない
内部足場 ○設置する (※脚立、足場板等・) [2.2.1]
・設置しない
防護シート ○設置する (設置範囲 ○工事に必要な範囲・) [2.2.1]
・設置しない
材料、搬出材等の運搬方法 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 [2.2.1][表2.2.1]

足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン」 (厚生労働省 平成21年4月) により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さんおよび柵木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式または(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

3養生
既存部分の養生 ※ビニルシート等・ [2.3.1]
既存家具等の養生 ※ビニルシート等・
固定家具等の移動 ・行う (図示)
国外開口部の養生 ○行う ○プラスト処理用養生

4仮設間仕切り
仮設間仕切り等の種別 設置箇所 ※図示 [2.3.2][表2.3.1]

種 別	下 地	仕上材 (厚さ mm)	充てん材	塗 装
・A種	・木下地	両面 ※せつこうボード (※9.5・)	厚さ mm	・片面
	※軽量鉄骨	・合板 (※9.0・)		※無し
・B種	・木下地	片面 ※せつこうボード (※9.5・)		・片面
	※軽量鉄骨	・合板 (※9.0・)		※無し
※C種	単管下地	防炎シート		※無し
仮設扉	※木製扉	※合板張り程度・		※無し
	・鋼製扉	※片面フラッシュ程度・		・有り

・設ける [2.4.1]
・構内に新設する。 規模 m2
仕上りの程度 (※天井・壁：合板または石膏ボードEP塗り 床：ビニルシート張り・)
・既存建物内の一部を使用する。
※設けない

5監督職員事務所
構内既存施設 ・利用できる (※有償・無償) ※利用できない [2.4.1]
構内既存施設 ・利用できる (※有償・無償) ※利用できない [2.4.1]

3防水改修工事
1.一般事項
専門事業者 福井県防水工事協同組合または監督職員の承諾する専門事業者
保証年限 ※10年・
(アスファルト防水、改質アスファルトシート防水、合成高分子系ルーフィングシート防水、塗膜防水) (アスファルトシングル葺き)

※改修標準仕様書3.1.3(5) による。 [3.1.3][3.8.3]

2.降雨等に対する養生方法 (と共)

3.既存防水の処理
露出防水層表面の仕上げ塗装除去 ・行う ・行わない [3.2.3]

4.防水層の下地補修
既存下地の補修箇所、範囲、数量等 [3.2.6]
※図示・

5.アスファルト防水 (責任施工)
押入金物 ※アルミニウム製 L=30×15×2.0 (mm) 程度・ [3.3.2]

年度別
R6
令和6年6月

公立大学法人 福井県立大学
分類番号
第一分類 第二分類 第三分類 審
査

図面番号
A-01
縮尺
N.S

KMR
株式会社 木村建築事務所
1級建築士事務所 福井県 (L) 115号
管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一

工事名称
永平寺キャンパスゲートブリッジ塗装改修工事
設計
図面名称
建築改修工事特記仕様書 (その1)

図面番号
A1： 原寸
A3： 50%縮小図

[3. 2. 5～3. 2. 6][3. 3. 2～3. 3. 5][表3. 3. 3]～[表3. 3. 10] アスファルト防水 <table><tr><td rowspan="4">防水改修工法 種 別</td><td colspan="5">屋根保護防水</td><td colspan="5">屋根露出防水</td><td colspan="5">屋根露出防水断熱</td></tr><tr><td>P1B 工法</td><td>P1B1 工法</td><td>T1B1 工法</td><td>P2A1 工法</td><td>P2A 工法</td><td>M4C 工法</td><td>M3D 工法</td><td>P0D 工法</td><td>P0D1 工法</td><td>M3D1 工法</td><td>M4D1 工法</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>※ B-1</td><td>※ B-1</td><td>※ B-1</td><td>※ B-1</td><td>※ A-1</td><td>※ A-1</td><td>※ C-1</td><td>※ C-1</td><td>※ D-1</td><td>※ D-1</td><td>※ D-1</td><td>※ D-1</td><td>※ D-1</td><td>※ D-1</td></tr><tr><td>※ B-2</td><td>※ B-2</td><td>※ B-2</td><td>※ A-2</td><td>※ A-2</td><td>※ C-2</td><td>※ C-2</td><td>※ D-2</td><td>※ D-2</td><td>※ D-2</td><td>※ D-2</td><td>※ D-2</td><td>※ D-2</td><td>※ D-2</td></tr></table>					防水改修工法 種 別	屋根保護防水					屋根露出防水					屋根露出防水断熱					P1B 工法	P1B1 工法	T1B1 工法	P2A1 工法	P2A 工法	M4C 工法	M3D 工法	P0D 工法	P0D1 工法	M3D1 工法	M4D1 工法				※ B-1	※ B-1	※ B-1	※ B-1	※ A-1	※ A-1	※ C-1	※ C-1	※ D-1	※ D-1	※ D-1	※ D-1	※ D-1	※ D-1	※ B-2	※ B-2	※ B-2	※ A-2	※ A-2	※ C-2	※ C-2	※ D-2	※ D-2	※ D-2	※ D-2	※ D-2	※ D-2	※ D-2	屋内防水 種別 ・S-C1 [表3. 5. 3] 平場のモルタル塗り厚さ 床塗り工法 ※改修標準仕様書6. 15. 6 (2) (イ)および(イ)に準ずる 下地モルタル塗り ※改修標準仕様書6. 15. 6 (3) (7)に準ずる 立ち上り部保護モルタル塗り厚さ ※7mm 絶縁用シート ※発泡ポリエチレンシート [3. 5. 2] 断熱材 [G] [3. 5. 2] 機械式固定工法の場合 ※改修標準仕様書3. 5. 2 (3) (7) (a)による 種類 () 厚さ ※25 ・50 接着工法の場合 ※改修標準仕様書3. 5. 2 (3) (7) (b)による 厚さ ※25 ・ 種類 () 厚さ ※25 ・50 脱気装置の種類および設置数量 ※図示 [3. 5. 3] 仕上塗料の種類及び使用量 ・製造所の仕様による [表3. 5. 1]～[表3. 5. 2] <table><tr><td rowspan="4">防水改修工法 種別</td><td colspan="12">塗膜防水</td></tr><tr><td>○ FCK 工法</td><td>○ LAK 工法</td><td>○ LAK 工法</td><td>○ LAK 工法</td><td>○ LAK 工法</td><td>○ LAK 工法</td><td>○ LAK 工法</td><td>○ LAK 工法</td><td>○ LAK 工法</td><td>○ LAK 工法</td><td>○ LAK 工法</td><td>○ LAK 工法</td></tr><tr><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td></tr><tr><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td><td>※ X-1</td></tr></table> 既存防水層 ルーフドレン回りの処理 改修用ドレンを設置する 既存表面の仕上げ塗装を除去する 保護層を設ける 脱気装置を設置する X-1及びX-2における仕上げ塗料 種類 () 使用量 () ※製造所の仕様による ウレタンゴム系塗膜防水X-1 (絶縁工法) の脱気装置の種類及び設置数量 種類 ※主材料の製造所の仕様による 設置数量 ※主材料の製造所の仕様による 個 室内については、監督職員の指示する場所において水張り試験を行う。 ・行わない。 監督員の指示する箇所に設ける。 (棟別および工法別に1ヶ所づつ) 大ききおよび仕様 ※125*85*0. 8 黄銅板製 表面透明合成樹脂塗料塗り シーリング改修工法の種類 ・シーリング充填工法 ・拡張シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法 シーリング材の種類、施工箇所 下記以外は、改修標準仕様書表3. 7. 1による。 [3. 7. 2][表3. 1. 2][表3. 7. 1] <table><tr><td>施工箇所</td><td>シーリング材の種類 (記号)</td></tr><tr><td>防水端部</td><td>MS-2</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table> シーリング材の目地寸法 [3. 7. 3] <table><tr><td>箇 所</td><td>コンクリート打層目地、ひび割れ誘発目地</td><td>(5. 12. 3) 以外のガラス回り</td><td>左記以外</td></tr><tr><td>幅 (mm)</td><td>※20以上</td><td>※5以上</td><td>※10以上</td></tr><tr><td>深さ (mm)</td><td>※10以上</td><td>※5以上</td><td>※10以上</td></tr></table> ブリッジ工法 ボンドブレイカー張り ・適用する エッジング材張り ・適用する 接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験 (部位) この材質 ※配管用鋼管 [3. 8. 2][表3. 8. 1] ・硬質ポリ塩化ビニル管 (・VP ・RF-VP [G]) 屋内には使用しない とい受金物 材質 ※熔融亜鉛めっきを行ったもの 形状 ※市販品 (とい径100以下) ※25×4. 5以上 (とい径100を超えるもの 取付間隔 ・ 足金物 材質 ※熔融亜鉛めっきを行ったもの 形状 ※市販品 取付間隔 ・ 鋼管製といの防露 ※改修標準仕様書表3. 8. 4による [3. 8. 3] ロックウール保温筒およびグラスウール保温筒のホルムアルデヒドの放散量 [3. 8. 2] ※F☆☆☆☆ たてどい受け金物の取付け ※図示 ・標準仕様書13. 5. 3 (d) (2)による [3. 8. 3] (13. 5. 3) 13. アルミニウム製笠木 [3. 9. 2] [表3. 9. 1][表5. 2. 2] 肉厚タイプとし固定支持金具間隔は800以内とする。 種類 ・250形 ・300形 ・350形 役物 ・適用する 表面処理 ※A B-1 種またはB B-1 種 ・B B-2 種 (・) 笠木の地下地補修 ・行う (工法 ※図示 ・) [3. 9. 3] 笠木の固定金具の工法等 (・) [3. 9. 3] 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重 (・1 ・1. 15 ・1. 3) 風圧力及び積雪荷重に対応した工法 (13. 2. 2) (13. 2. 3) (表13. 2. 1) <table><tr><td>施工場所</td><td>材質によるの種類</td><td>厚さ (mm)</td><td>屋根裏形状</td></tr><tr><td>・</td><td>※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-AZ150) ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-Z25)</td><td>※0. 4 ・ ・</td><td>・立平葺 ・あり掛葺 ・心木なし瓦葺葺</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 下葺材料 (13. 2. 2) ・アスファルトルーフィング940 ・改質アスファルトルーフィング下葺材 (・一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ) 雪止め ・設ける ・設けない (13. 2. 3) <td> 15. 折板葺 (責任施工) 16. 粘土瓦葺 (責任施工) </td> <td> 1. 範囲 2. 可とう性エポキシ樹脂 3. パテ状エポキシ樹脂 4. エポキシ樹脂モルタル 5. ポリマーセメントモルタル 6. ポリマーセメントスラリー 7. 既調合モルタル 8. 防水剤 </td> <td> 施工業者 ・福井県板金工業組合の会員 保証書 材料 ・年 施工 ※5年 (ただし、材料の個別保証について塗装溶融亜鉛めっき鋼板、塗装溶融-5%アルミニウム合金めっき鋼板、塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板、溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板は (一社) 日本鉄鋼連盟 亜鉛鉄板委員会の標準保証規格による保証とする場合には保証書の提出を要さない) 日本鉄鋼連盟 亜鉛鉄板委員会の標準保証規格による保証とする場合には保証書の提出を要さない) (13. 3. 2) (表13. 2. 1) <table><tr><td>施工場所</td><td>材質によるの種類</td><td>厚さ (mm)</td><td>形状 (mm)</td><td>軒先戸板</td><td>耐火性能</td></tr><tr><td>※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-AZ150) ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-Z25)</td><td>※0. 6 ・</td><td>※図示 () 程度 ・山ピッチ () 程度</td><td>※有り ・無し</td><td>※30分</td><td>耐火性能</td></tr></table> 形式 ・重ね形 ・はざ縁形 (13. 3. 2) 断熱材 ※有り (種類: 厚さ (mm): 防火性能: 時間) ・無し タイトフレームにJIS G 3302以外の鋼材を直接外気に影響を受けない屋内で使用する場合は 表面処理 標準仕様書14. 2. 2による ・E種 ・F種 (13. 3. 2) 施工業者 ・福井県板金工業組合の会員 保証書 材料 ・年 施工 ※5年 (ただし、材料の個別保証について塗装溶融亜鉛めっき鋼板、塗装溶融-5%アルミニウム合金めっき鋼板、塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板、溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板は (一社) 日本鉄鋼連盟 亜鉛鉄板委員会の標準保証規格による保証とする場合には保証書の提出を要さない) 日本鉄鋼連盟 亜鉛鉄板委員会の標準保証規格による保証とする場合には保証書の提出を要さない) (13. 4. 2) ・越前瓦 ・JIS製品 JIS A 5208に基づく凍害試験等 ・行う ・行わない 棟瓦を棟用心木取付ボルト等で躯体に緊結する。 (・図示 ・) (13. 4. 3) 保証書 材料 ※1 0年 施工 ※1 0年 棟の工法 ・7寸丸伏せ棟 ・のしー様棟 ・のし積み棟 補強用芯材 材質 ※杉又はひのき 寸法 ※幅21mm×高さ15mm 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対する工法 (ガイドライン工法等) ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力 (・1 ・1. 15 ・1. 3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・適用しない) 既存外壁の仕上材撤去 [9. 3. 3] ・行う (範囲 ※図示 ・) <table><tr><td>性 能</td><td>常温物性</td><td>引張接着性</td><td>低温性</td><td>加熱劣化</td></tr><tr><td>引張強さ (N/mm²)</td><td>1. 0以上</td><td>最大引張応力 1. 0</td><td>1. 0以上</td><td>1. 0以上</td></tr><tr><td>伸び (%)</td><td>30以上</td><td>破断時の伸び 10以上</td><td>30以上</td><td>30以上</td></tr></table> 比重 標準値±0. 10 押出し性 60秒以下 スランプ 3mm以下 加熱減重 5%以下 1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3) 常温常湿 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造後6ヶ月間保管した後であっても、上記の品質基準に適合していること。 4) JIS A 6024 (建築補修用注入エポキシ樹脂) に準じる。 <table><tr><td>初期硬化性 (N/mm²)</td><td>接着強さ (N/mm²)</td><td>圧縮強さ (N/mm²)</td><td>曲げ強さ (N/mm²)</td><td>硬化収縮率 (%)</td></tr><tr><td>標準 2. 0以上</td><td>標準 6. 0以上</td><td>50以上</td><td>30以上</td><td>3. 0%以下</td></tr></table> 1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3) 常温常湿 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造後の指定する期間または製造後6ヶ月間保管した後であっても、上記の品質基準に適合していること。 4) JIS A 6024 (建築補修用注入エポキシ樹脂) に準じる。 <table><tr><td>接着強さ (N/mm²)</td><td>圧縮強さ (N/mm²)</td><td>曲げ強さ (N/mm²)</td></tr><tr><td>1. 0以上</td><td>20. 0以上</td><td>10. 0以上</td></tr></table> 1) ことてりて容易で、かつ、硬化後の仕上がり良好であること。 2) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 3) 「労働安全衛生法」に基づく有機溶剤中毒予防規則に規定された第1種有機溶剤を使用しないこと。 4) 形状に異常がなく、だれが生じないこと。 5) 常温常湿 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造後6ヶ月保存しても上記の品質基準に適合していること。 合成ゴム系、アクリル系、エチレン-酢ビ系等 <table><tr><td>曲げ強さ (N/mm²)</td><td>圧縮強さ (N/mm²)</td><td colspan="2">接着強さ (N/mm²)</td></tr><tr><td></td><td></td><td>標準時</td><td>低温時</td></tr><tr><td>6. 0以上</td><td>20. 0以上</td><td>1. 0以上</td><td>0. 8以上</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>0. 5以上</td></tr></table> 表面状態 だれの下りり量は5mm以内とし、ひび割れが発生してないこと。 透水性 裏面の濡れ、水滴の付着がないこと。 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月保存しても変質しないこと。 合成ゴム系、アクリル系、エチレン-酢ビ系等 <table><tr><td>拡がり速さ (cm/s)</td><td>長さ変化率 (収縮) (%)</td><td>引張接着強さ (材齢28日) (N/mm²)</td><td>曲げ強度 (材齢28日) (N/mm²)</td><td>吸水率 (72時間) (%)</td><td>耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm²)</td></tr><tr><td>3以上</td><td>3以下</td><td>0. 5以上</td><td>5. 0以上</td><td>15以下</td><td>0. 5以上</td></tr></table> 保水係数 0. 35～0. 55 粘弾係数 0. 50～1. 00 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 材料は、常温常湿において製造後6ヶ月保存しても変質しないこと。 <table><tr><td>保水率 (%)</td><td>単位容積質量 (kg/ℓ)</td><td>接着強さ (N/mm²)</td><td>曲げ強さ (N/mm²)</td><td>長さ変化率 (%)</td></tr><tr><td>70. 0以上</td><td>1. 80以上</td><td>0. 60以上</td><td>0. 40以上</td><td>0. 20以下</td></tr></table> 防水剤の種類は建築用のモルタルに用いるセメント防水剤とする 膨張性のひび割れおよびそりがないこと 混合割合 セメント重量の5%以下 吸水比 95%以下 透水性 80%以下 凍結時間 (JIS R 5201) 始発1時間以上、集結1 0時間以内 曲げ及び圧縮強度比 70%以上 <td> ①専門工事業者 ②ひび割れ部改修工法 ③欠損部改修工法 ④浮き部改修工法 </td><td> ※監督員の承諾する専門工事業者 ※樹脂注入工法 [4. 2. 2][4. 3. 4] <table><tr><td>種 別</td><td>ひび割れ幅 (mm)</td><td>注入間隔 (mm)</td><td>注入量 (ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0. 2以上～1. 0未満</td><td>200～300</td><td>※130</td></tr></table> ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0. 2以上～0. 3未満 50～100 ※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0. 3以上～0. 5未満 100～200 ※70 0. 5以上～1. 0未満 150～250 ※130 建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 [4. 2. 2] コア抜き確認 ・行う (抜取り部の補修方法:) ・ウカットシール材充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 5] ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形または2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ①可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4. 2. 2][4. 3. 6] ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 7] ①エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ※監督員の承諾する専門工事業者 保証期間 ※5年間 ・ ※樹脂注入工法 [4. 2. 2][4. 3. 4] <table><tr><td>種 別</td><td>ひび割れ幅 (mm)</td><td>注入間隔 (mm)</td><td>注入量 (ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0. 2以上～1. 0未満</td><td>200～300</td><td>※130</td></tr></table> ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0. 2以上～0. 3未満 50～100 ※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0. 3以上～0. 5未満 100～200 ※70 0. 5以上～1. 0未満 150～250 ※130 建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 [4. 2. 2] コア抜き確認 ・行う (抜取り部の補修方法:) ・ウカットシール材充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 5] ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形または2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4. 2. 2][4. 3. 6] ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 7] ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法 [4. 2. 2][4. 4. 9] ・現場調査材料 (セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による 既調合材料 () 既製目地材 ・使用する (形状) 仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 ・ <table><tr><td>改修工法の種類</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※16</td><td>※25</td><td>―</td><td>―</td><td>※25</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※13</td><td>※20</td><td>※12</td><td>※20</td><td>※25</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※13</td><td>※20</td><td>※12</td><td>※20</td><td>※25</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>―</td><td>―</td><td>※25</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※25</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※25</td></tr><tr><td>・充填工法</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・モルタル塗替え工法</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> アンカーピン [4. 2. 2] ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 注入口付アンカーピン [4. 1. 4][4. 2. 2] ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm 充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 7] ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル モルタル塗替え工法 [4. 2. 2][4. 4. 9] ・現場調査材料 (セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による 既調合材料 () 既製目地材 ・使用する (形状) 仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 ・ </td></td>					防水改修工法 種別	塗膜防水												○ FCK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	施工箇所	シーリング材の種類 (記号)	防水端部	MS-2					箇 所	コンクリート打層目地、ひび割れ誘発目地	(5. 12. 3) 以外のガラス回り	左記以外	幅 (mm)	※20以上	※5以上	※10以上	深さ (mm)	※10以上	※5以上	※10以上	施工場所	材質によるの種類	厚さ (mm)	屋根裏形状	・	※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-AZ150) ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-Z25)	※0. 4 ・ ・	・立平葺 ・あり掛葺 ・心木なし瓦葺葺									15. 折板葺 (責任施工) 16. 粘土瓦葺 (責任施工)	1. 範囲 2. 可とう性エポキシ樹脂 3. パテ状エポキシ樹脂 4. エポキシ樹脂モルタル 5. ポリマーセメントモルタル 6. ポリマーセメントスラリー 7. 既調合モルタル 8. 防水剤	施工業者 ・福井県板金工業組合の会員 保証書 材料 ・年 施工 ※5年 (ただし、材料の個別保証について塗装溶融亜鉛めっき鋼板、塗装溶融-5%アルミニウム合金めっき鋼板、塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板、溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板は (一社) 日本鉄鋼連盟 亜鉛鉄板委員会の標準保証規格による保証とする場合には保証書の提出を要さない) 日本鉄鋼連盟 亜鉛鉄板委員会の標準保証規格による保証とする場合には保証書の提出を要さない) (13. 3. 2) (表13. 2. 1) <table><tr><td>施工場所</td><td>材質によるの種類</td><td>厚さ (mm)</td><td>形状 (mm)</td><td>軒先戸板</td><td>耐火性能</td></tr><tr><td>※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-AZ150) ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-Z25)</td><td>※0. 6 ・</td><td>※図示 () 程度 ・山ピッチ () 程度</td><td>※有り ・無し</td><td>※30分</td><td>耐火性能</td></tr></table> 形式 ・重ね形 ・はざ縁形 (13. 3. 2) 断熱材 ※有り (種類: 厚さ (mm): 防火性能: 時間) ・無し タイトフレームにJIS G 3302以外の鋼材を直接外気に影響を受けない屋内で使用する場合は 表面処理 標準仕様書14. 2. 2による ・E種 ・F種 (13. 3. 2) 施工業者 ・福井県板金工業組合の会員 保証書 材料 ・年 施工 ※5年 (ただし、材料の個別保証について塗装溶融亜鉛めっき鋼板、塗装溶融-5%アルミニウム合金めっき鋼板、塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板、溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板は (一社) 日本鉄鋼連盟 亜鉛鉄板委員会の標準保証規格による保証とする場合には保証書の提出を要さない) 日本鉄鋼連盟 亜鉛鉄板委員会の標準保証規格による保証とする場合には保証書の提出を要さない) (13. 4. 2) ・越前瓦 ・JIS製品 JIS A 5208に基づく凍害試験等 ・行う ・行わない 棟瓦を棟用心木取付ボルト等で躯体に緊結する。 (・図示 ・) (13. 4. 3) 保証書 材料 ※1 0年 施工 ※1 0年 棟の工法 ・7寸丸伏せ棟 ・のしー様棟 ・のし積み棟 補強用芯材 材質 ※杉又はひのき 寸法 ※幅21mm×高さ15mm 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対する工法 (ガイドライン工法等) ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力 (・1 ・1. 15 ・1. 3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・適用しない) 既存外壁の仕上材撤去 [9. 3. 3] ・行う (範囲 ※図示 ・) <table><tr><td>性 能</td><td>常温物性</td><td>引張接着性</td><td>低温性</td><td>加熱劣化</td></tr><tr><td>引張強さ (N/mm²)</td><td>1. 0以上</td><td>最大引張応力 1. 0</td><td>1. 0以上</td><td>1. 0以上</td></tr><tr><td>伸び (%)</td><td>30以上</td><td>破断時の伸び 10以上</td><td>30以上</td><td>30以上</td></tr></table> 比重 標準値±0. 10 押出し性 60秒以下 スランプ 3mm以下 加熱減重 5%以下 1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3) 常温常湿 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造後6ヶ月間保管した後であっても、上記の品質基準に適合していること。 4) JIS A 6024 (建築補修用注入エポキシ樹脂) に準じる。 <table><tr><td>初期硬化性 (N/mm²)</td><td>接着強さ (N/mm²)</td><td>圧縮強さ (N/mm²)</td><td>曲げ強さ (N/mm²)</td><td>硬化収縮率 (%)</td></tr><tr><td>標準 2. 0以上</td><td>標準 6. 0以上</td><td>50以上</td><td>30以上</td><td>3. 0%以下</td></tr></table> 1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3) 常温常湿 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造後の指定する期間または製造後6ヶ月間保管した後であっても、上記の品質基準に適合していること。 4) JIS A 6024 (建築補修用注入エポキシ樹脂) に準じる。 <table><tr><td>接着強さ (N/mm²)</td><td>圧縮強さ (N/mm²)</td><td>曲げ強さ (N/mm²)</td></tr><tr><td>1. 0以上</td><td>20. 0以上</td><td>10. 0以上</td></tr></table> 1) ことてりて容易で、かつ、硬化後の仕上がり良好であること。 2) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 3) 「労働安全衛生法」に基づく有機溶剤中毒予防規則に規定された第1種有機溶剤を使用しないこと。 4) 形状に異常がなく、だれが生じないこと。 5) 常温常湿 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造後6ヶ月保存しても上記の品質基準に適合していること。 合成ゴム系、アクリル系、エチレン-酢ビ系等 <table><tr><td>曲げ強さ (N/mm²)</td><td>圧縮強さ (N/mm²)</td><td colspan="2">接着強さ (N/mm²)</td></tr><tr><td></td><td></td><td>標準時</td><td>低温時</td></tr><tr><td>6. 0以上</td><td>20. 0以上</td><td>1. 0以上</td><td>0. 8以上</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>0. 5以上</td></tr></table> 表面状態 だれの下りり量は5mm以内とし、ひび割れが発生してないこと。 透水性 裏面の濡れ、水滴の付着がないこと。 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月保存しても変質しないこと。 合成ゴム系、アクリル系、エチレン-酢ビ系等 <table><tr><td>拡がり速さ (cm/s)</td><td>長さ変化率 (収縮) (%)</td><td>引張接着強さ (材齢28日) (N/mm²)</td><td>曲げ強度 (材齢28日) (N/mm²)</td><td>吸水率 (72時間) (%)</td><td>耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm²)</td></tr><tr><td>3以上</td><td>3以下</td><td>0. 5以上</td><td>5. 0以上</td><td>15以下</td><td>0. 5以上</td></tr></table> 保水係数 0. 35～0. 55 粘弾係数 0. 50～1. 00 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 材料は、常温常湿において製造後6ヶ月保存しても変質しないこと。 <table><tr><td>保水率 (%)</td><td>単位容積質量 (kg/ℓ)</td><td>接着強さ (N/mm²)</td><td>曲げ強さ (N/mm²)</td><td>長さ変化率 (%)</td></tr><tr><td>70. 0以上</td><td>1. 80以上</td><td>0. 60以上</td><td>0. 40以上</td><td>0. 20以下</td></tr></table> 防水剤の種類は建築用のモルタルに用いるセメント防水剤とする 膨張性のひび割れおよびそりがないこと 混合割合 セメント重量の5%以下 吸水比 95%以下 透水性 80%以下 凍結時間 (JIS R 5201) 始発1時間以上、集結1 0時間以内 曲げ及び圧縮強度比 70%以上 <td> ①専門工事業者 ②ひび割れ部改修工法 ③欠損部改修工法 ④浮き部改修工法 </td> <td> ※監督員の承諾する専門工事業者 ※樹脂注入工法 [4. 2. 2][4. 3. 4] <table><tr><td>種 別</td><td>ひび割れ幅 (mm)</td><td>注入間隔 (mm)</td><td>注入量 (ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0. 2以上～1. 0未満</td><td>200～300</td><td>※130</td></tr></table> ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0. 2以上～0. 3未満 50～100 ※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0. 3以上～0. 5未満 100～200 ※70 0. 5以上～1. 0未満 150～250 ※130 建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 [4. 2. 2] コア抜き確認 ・行う (抜取り部の補修方法:) ・ウカットシール材充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 5] ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形または2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ①可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4. 2. 2][4. 3. 6] ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 7] ①エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ※監督員の承諾する専門工事業者 保証期間 ※5年間 ・ ※樹脂注入工法 [4. 2. 2][4. 3. 4] <table><tr><td>種 別</td><td>ひび割れ幅 (mm)</td><td>注入間隔 (mm)</td><td>注入量 (ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0. 2以上～1. 0未満</td><td>200～300</td><td>※130</td></tr></table> ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0. 2以上～0. 3未満 50～100 ※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0. 3以上～0. 5未満 100～200 ※70 0. 5以上～1. 0未満 150～250 ※130 建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 [4. 2. 2] コア抜き確認 ・行う (抜取り部の補修方法:) ・ウカットシール材充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 5] ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形または2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4. 2. 2][4. 3. 6] ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 7] ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法 [4. 2. 2][4. 4. 9] ・現場調査材料 (セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による 既調合材料 () 既製目地材 ・使用する (形状) 仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 ・ <table><tr><td>改修工法の種類</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※16</td><td>※25</td><td>―</td><td>―</td><td>※25</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※13</td><td>※20</td><td>※12</td><td>※20</td><td>※25</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※13</td><td>※20</td><td>※12</td><td>※20</td><td>※25</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>―</td><td>―</td><td>※25</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※25</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※25</td></tr><tr><td>・充填工法</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・モルタル塗替え工法</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> アンカーピン [4. 2. 2] ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 注入口付アンカーピン [4. 1. 4][4. 2. 2] ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm 充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 7] ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル モルタル塗替え工法 [4. 2. 2][4. 4. 9] ・現場調査材料 (セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による 既調合材料 () 既製目地材 ・使用する (形状) 仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 ・ </td>	施工場所	材質によるの種類	厚さ (mm)	形状 (mm)	軒先戸板	耐火性能	※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-AZ150) ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-Z25)	※0. 6 ・	※図示 () 程度 ・山ピッチ () 程度	※有り ・無し	※30分	耐火性能	性 能	常温物性	引張接着性	低温性	加熱劣化	引張強さ (N/mm ²)	1. 0以上	最大引張応力 1. 0	1. 0以上	1. 0以上	伸び (%)	30以上	破断時の伸び 10以上	30以上	30以上	初期硬化性 (N/mm ²)	接着強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	曲げ強さ (N/mm ²)	硬化収縮率 (%)	標準 2. 0以上	標準 6. 0以上	50以上	30以上	3. 0%以下	接着強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	曲げ強さ (N/mm ²)	1. 0以上	20. 0以上	10. 0以上	曲げ強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	接着強さ (N/mm ²)				標準時	低温時	6. 0以上	20. 0以上	1. 0以上	0. 8以上				0. 5以上	拡がり速さ (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着強さ (材齢28日) (N/mm ²)	曲げ強度 (材齢28日) (N/mm ²)	吸水率 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm ²)	3以上	3以下	0. 5以上	5. 0以上	15以下	0. 5以上	保水率 (%)	単位容積質量 (kg/ℓ)	接着強さ (N/mm ²)	曲げ強さ (N/mm ²)	長さ変化率 (%)	70. 0以上	1. 80以上	0. 60以上	0. 40以上	0. 20以下	①専門工事業者 ②ひび割れ部改修工法 ③欠損部改修工法 ④浮き部改修工法	※監督員の承諾する専門工事業者 ※樹脂注入工法 [4. 2. 2][4. 3. 4] <table><tr><td>種 別</td><td>ひび割れ幅 (mm)</td><td>注入間隔 (mm)</td><td>注入量 (ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0. 2以上～1. 0未満</td><td>200～300</td><td>※130</td></tr></table> ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0. 2以上～0. 3未満 50～100 ※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0. 3以上～0. 5未満 100～200 ※70 0. 5以上～1. 0未満 150～250 ※130 建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 [4. 2. 2] コア抜き確認 ・行う (抜取り部の補修方法:) ・ウカットシール材充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 5] ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形または2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ①可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4. 2. 2][4. 3. 6] ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 7] ①エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ※監督員の承諾する専門工事業者 保証期間 ※5年間 ・ ※樹脂注入工法 [4. 2. 2][4. 3. 4] <table><tr><td>種 別</td><td>ひび割れ幅 (mm)</td><td>注入間隔 (mm)</td><td>注入量 (ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0. 2以上～1. 0未満</td><td>200～300</td><td>※130</td></tr></table> ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0. 2以上～0. 3未満 50～100 ※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0. 3以上～0. 5未満 100～200 ※70 0. 5以上～1. 0未満 150～250 ※130 建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 [4. 2. 2] コア抜き確認 ・行う (抜取り部の補修方法:) ・ウカットシール材充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 5] ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形または2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4. 2. 2][4. 3. 6] ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 7] ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法 [4. 2. 2][4. 4. 9] ・現場調査材料 (セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による 既調合材料 () 既製目地材 ・使用する (形状) 仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 ・ <table><tr><td>改修工法の種類</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td><td>材の寸法の寸法 (mm)</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※16</td><td>※25</td><td>―</td><td>―</td><td>※25</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※13</td><td>※20</td><td>※12</td><td>※20</td><td>※25</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※13</td><td>※20</td><td>※12</td><td>※20</td><td>※25</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>―</td><td>―</td><td>※25</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※25</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※25</td></tr><tr><td>・充填工法</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・モルタル塗替え工法</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> アンカーピン [4. 2. 2] ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 注入口付アンカーピン [4. 1. 4][4. 2. 2] ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm 充填工法 [4. 2. 2][4. 3. 7] ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル モルタル塗替え工法 [4. 2. 2][4. 4. 9] ・現場調査材料 (セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による 既調合材料 () 既製目地材 ・使用する (形状) 仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 ・	種 別	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0. 2以上～1. 0未満	200～300	※130	種 別	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0. 2以上～1. 0未満	200～300	※130	改修工法の種類	材の寸法の寸法 (mm)	材の寸法の寸法 (mm)	材の寸法の寸法 (mm)	材の寸法の寸法 (mm)	材の寸法の寸法 (mm)	・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	―	―	※25	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	―	―	※25	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	・充填工法						・モルタル塗替え工法					
防水改修工法 種 別	屋根保護防水					屋根露出防水					屋根露出防水断熱																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	P1B 工法	P1B1 工法	T1B1 工法	P2A1 工法		P2A 工法	M4C 工法	M3D 工法	P0D 工法	P0D1 工法	M3D1 工法	M4D1 工法																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	※ B-1	※ B-1	※ B-1	※ B-1		※ A-1	※ A-1	※ C-1	※ C-1	※ D-1	※ D-1	※ D-1	※ D-1	※ D-1	※ D-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	※ B-2	※ B-2	※ B-2	※ A-2	※ A-2	※ C-2	※ C-2	※ D-2	※ D-2	※ D-2	※ D-2	※ D-2	※ D-2	※ D-2																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
防水改修工法 種別	塗膜防水																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	○ FCK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法	○ LAK 工法																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1	※ X-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
施工箇所	シーリング材の種類 (記号)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
防水端部	MS-2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
箇 所	コンクリート打層目地、ひび割れ誘発目地	(5. 12. 3) 以外のガラス回り	左記以外																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
幅 (mm)	※20以上	※5以上	※10以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
深さ (mm)	※10以上	※5以上	※10以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
施工場所	材質によるの種類	厚さ (mm)	屋根裏形状																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
・	※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-AZ150) ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-Z25)	※0. 4 ・ ・	・立平葺 ・あり掛葺 ・心木なし瓦葺葺																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
施工場所	材質によるの種類	厚さ (mm)	形状 (mm)	軒先戸板	耐火性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-AZ150) ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯 (JGRCR-20-Z25)	※0. 6 ・	※図示 () 程度 ・山ピッチ () 程度	※有り ・無し	※30分	耐火性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
性 能	常温物性	引張接着性	低温性	加熱劣化																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
引張強さ (N/mm ²)	1. 0以上	最大引張応力 1. 0	1. 0以上	1. 0以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
伸び (%)	30以上	破断時の伸び 10以上	30以上	30以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
初期硬化性 (N/mm ²)	接着強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	曲げ強さ (N/mm ²)	硬化収縮率 (%)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
標準 2. 0以上	標準 6. 0以上	50以上	30以上	3. 0%以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
接着強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	曲げ強さ (N/mm ²)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
1. 0以上	20. 0以上	10. 0以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
曲げ強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	接着強さ (N/mm ²)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		標準時	低温時																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
6. 0以上	20. 0以上	1. 0以上	0. 8以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
			0. 5以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
拡がり速さ (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着強さ (材齢28日) (N/mm ²)	曲げ強度 (材齢28日) (N/mm ²)	吸水率 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm ²)																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
3以上	3以下	0. 5以上	5. 0以上	15以下	0. 5以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
保水率 (%)	単位容積質量 (kg/ℓ)	接着強さ (N/mm ²)	曲げ強さ (N/mm ²)	長さ変化率 (%)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
70. 0以上	1. 80以上	0. 60以上	0. 40以上	0. 20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
種 別	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (ml/m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0. 2以上～1. 0未満	200～300	※130																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
種 別	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (ml/m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0. 2以上～1. 0未満	200～300	※130																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
改修工法の種類	材の寸法の寸法 (mm)	材の寸法の寸法 (mm)	材の寸法の寸法 (mm)	材の寸法の寸法 (mm)	材の寸法の寸法 (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	―	―	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13	※20	※12	※20	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	―	―	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16	※9	※16	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
・充填工法																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・モルタル塗替え工法																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
年度別 R6		公立大学法人 福井県立大学		工事名称 永平寺キャンパスゲートブリッジ塗装改修工事		図面番号 A-02																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
分 類 考 号		第一分類	第二分類	第三分類	審 査	設 計	図面名称 建築改修工事特記仕様書(その2)	縮 尺 N. S.																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

A1: 原寸
A3: 50%縮小図

[illegible]

年度別

R6

令和6年6月

分類番号

第一分類

第二分類

第三分類

審査

公立大学法人

福岡県立大学

図面番号

A-04

16. セルフレベリング材塗り

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う
見本焼き ・行う
接着剤のホルムアルデヒド放数量 ※F☆☆☆☆

[6.16.3]
[6.16.4]

[6.17.2] [表6.17.1]

・せっこう系（施工箇所および厚さ ※仕上表による ・図示 ・）
・セメント系（施工箇所および厚さ ※仕上表による ・図示 ・）

[2.3.1] [5.1.6]
(20.2.12)

形式	寸法 (mm)	種 類	スラットの材質	スラットの幅 (mm)	ボックス・レール	取付箇所
※模形		※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製	※25	※鋼製	・図示 ・
・縦形		※1 本操作コード ・2 本操作コード	※アルミスラット ・クロススラット	・80 ※100	※7#ミウム合金製	・図示 ・

17. ブラインド

・再使用する（養生方法：
・新設する

[2.3.1] [5.1.6]
(20.2.12)

形式	寸法 (mm)	種 類	スラットの材質	スラットの幅 (mm)	ボックス・レール	取付箇所
※模形		※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製	※25	※鋼製	・図示 ・
・縦形		※1 本操作コード ・2 本操作コード	※アルミスラット ・クロススラット	・80 ※100	※7#ミウム合金製	・図示 ・

18. カーテン

・再使用する（保管場所：
・新設する

[2.3.1] [5.1.6]
(20.2.14)

形 式	開閉操作方式	カーテン用きれ地の種類、品質、特殊加工等	ひだの種類	取付箇所
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け ・電動 ・ひも引き ・手引き		・フランスひだ ・箱ひだ・つまひだ ・プレーンひだ・片ひだ ・ ・	

19. カーテンレール

・再使用する（養生方法：
・新設する

[5.1.6]
(20.2.14)

材 種	※アルミニウム製	ステンレス製
形 式	・片引き	・引分け（暗幕用は300mm以上の召合せの重掛けとする）
形 状	・C型 ・D型 ・角形	

20. ブラインドボックス
およびカーテンボックス

・再使用する
・新設する

[5.1.6]
[5.2.4]

材 質	※アルミニウム製	ステンレス製
表面処理	※BC-1	※BC-2（ 溝幅×深さ (mm) ・90×150 ・120×80 ・120×150 ・150×80 ・図示

21. フリーアクセスフロア

※耐荷重性能（5000N、高さ300以上）については平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したものまたは同等のものとする。

施工箇所	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能 (U値)	漏えい抵抗	表面仕上げ材
・	・	・	・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・5.2以上 ・3.2以上	※1×10 Ω より大きい	・帯電防止床 タイル ・タイルカー ペット

表面仕上材の品質・性能は、標準仕様書19章による。
構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製
コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様
コンセント本体 ・別途設備工事

配線用取り出し用開口
※対応品または工場加工品
（インナータイプコンセント取付タイプと容易に破損しないものとする。また、全てのパネルに1箇所程度設ける）
空調用吹き出し（吸い込み）パネル
※なし
・有り（※固定式 ・可変式） ・施工箇所（※図示 ・）

[20.2.2]
[20.2.3]

種 類	寸法・形状 (パネル内の建具共)	遮音性
構成形式	構成基材	表面仕上
※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式	・	・
遮音タイプの天井裏は図示による		

22. 可動間仕切

遮音タイプの天井裏は図示による

[20.2.4]

走行方向	操作方法	パネル 表面材・仕上	パネル圧接装置の 操作方法	遮音性
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	※鋼板		・一般タイプ ・遮音タイプ

遮音タイプの天井裏は図示による
ハンガーレール取付下地補強 ※図示 ・
ハンガーレールの躯体または下地補強材に対する固定は溶接とする

[20.2.5]

パネル表面材	脚 部	ドアエッジ
※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	形 状 ・幅木 ・支柱 ・なし	材 質 ・アルミニウム製 ※ステンレス製 ※R

25. 表示

(20.2.10)

区 分	材 質	寸法 (mm)	厚さ (mm)	取付高さ	書 体
・ガラススクリーン に対する対人衝突 防止表示 （※両面 ・片面）	※ステンレス製 ・図示	※30φ ・	※市販品 ・	※図示 ・	
・室名札 ・ピクトグラフ ・とびら番号	※アクリル板 ・	※図示 ・	※5 ・	※図示 ・	
・庁舎案内板 ・各階案内板 ・	※アクリル板 ・	※図示 ・	※5 ・	※図示 ・	

案内用図記号はJIS Z 8210による。
車イス使用車停止の明示表示は、蛍光性を持つものであること。（・TA-1 ・TA-2 ・TA-3）
・誘導標識、非常用進出口表示等は市販品とし、その他は標準詳細図による。
製造所 監督員の承諾する製造所

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

26. 天井見切縁

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	・額縁タイプ ・目地タイプ ・目地タイプ	・額縁タイプ ・目地タイプ ・目地タイプ	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

一般形：パッキンを装着しないもの、または がたつき防止用パッキンを装着したもの
密閉形：ボルト、ナット等のメカニカル構造にパッキンを装着したもの
製造所 評価名簿によるもの（結露防止型を除く）

27. 天井点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

29. 床点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

32. かざ箱

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

26. 天井見切縁

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

27. 天井点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

29. 床点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

32. かざ箱

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

26. 天井見切縁

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

27. 天井点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

29. 床点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

32. かざ箱

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

26. 天井見切縁

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

27. 天井点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

29. 床点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

32. かざ箱

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

26. 天井見切縁

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

27. 天井点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

29. 床点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

32. かざ箱

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

26. 天井見切縁

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

27. 天井点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

29. 床点検口

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

32. かざ箱

材 種 ・アルミニウム製 ・塩化ビニル製

[26.天井見切縁
27.天井点検口
29.床点検口
32.かざ箱]

材 種	寸 法	形 式	枠の許容差	クリアランス
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	受枠、蓋枠とも ±0.5mm以内	片側 2.0mm以内

アルミニウム合金押出成形材はJIS H 4100 A603S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜JIS H 8601 (AA6) をおこなったものとする。
内枠、外枠のコーナークビス、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に垂鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。
仕上材の留付金具はアルミニウム合金押出成形材、垂鉛めっき鋼板の類とする。
製造所 評価名簿によるもの

26. 天井見切縁</

9環境配慮改修工事

1. 一般事項

関係法令等の遵守
大気汚染防止法、労働安全衛生法、石綿障害予防規則（以下石綿則）
特定化学物質等障害予防規則、廃棄物の処理および清掃に関する法律（以下廃掃法）
福井県アスベストによる健康被害の防止に関する条例
既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説
建設・解体工事に伴うアスベスト廃棄物処理に関する技術指針・同解説

施工調査
※アスベスト含有建材の有無
目視、および既存資料による製造年等の確認
・建材中の石綿含有率の分析
分析方法
・JIS A 1481-2 または JIS A 1481-3による
分析結果については、監督職員に報告すること。

材料名	定性分析	定量分析
	・（試料数： ）	・（試料数： ）
	・（試料数： ）	・（試料数： ）
	・（試料数： ）	・（試料数： ）

採取箇所は図示

アスベスト粉じん濃度測定
・行う（石綿含有率5質量％超）
測定室（ ）

適用	測定名称	測定時期	測定場所 (各施工箇所ごと)	測定点	備 考
・	測定 1	処理作業前	処理作業室	各 2 点～5 点	(注) 1
・	測定 2		調査対象室外部の付近	計 2 点	大気
・	測定 3	処理作業室内		各 2 点～5 点	(注) 1
・	測定 4	処理作業中	負圧・除じん装置の 排気吹出し口	出口吹出し風速 1 m/sec 以下の位置 各 2 点	—
・	測定 5		処理作業室外(敷地境界)	4 方向各 1 点	—
・	測定 6	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	各 2 点	—
・	測定 7	処理作業後シート	処理作業室内	各 2 点～5 点	(注) 1
・	測定 8	撤去後 1 週間以降	調査対象室外部の付近	計 2 点	大気

(注) 1. 各施工箇所ごとの作業室面積が 5 0 m²以下までは 2 点、3 0 0 m²以下までは 3 点、
1 0 0 0 m²以下までは 4 点、1 0 0 0 m²を超えるものは 5 点とする。

・行う（石綿含有率5質量％以下）
測定室（ ）

適用	測定名称	測定時期	測定場所 (各施工箇所ごと)	測定点	備 考
・	測定 1	処理作業前	処理作業室	各 1 点	—
・	測定 2		調査対象室外部の付近	計 1 点	大気
・	測定 3	処理作業室内		各 1 点	—
・	測定 4	処理作業中	負圧・除じん装置の 排気吹出し口	各 1 点	—
・	測定 5		処理作業室外(敷地境界)	計 1 点	—
・	測定 6	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	各 1 点	—
・	測定 7	処理作業後シート	処理作業室内	各 1 点	—
・	測定 8	撤去後 1 週間以降	調査対象室外部の付近	計 2 点	大気

アスベスト粉じん濃度測定方法

名称	測定 3	測定 1, 2, 4, 6, 7, 8	測定 5
計数機器	位相差顕微鏡		
メンブレンフィルタ の直径		2 5 mm	4 7 mm
試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	1 0 l/min
試料の吸引時間	5 min	1 2 0 min	2 4 0 min
試料の透明化	アセトントリアセチン法またはシュウ酸ジエチル法		
計数条件	総アスベスト繊維数 2 0 0 本または視野数 5 0 視野		
計数アスベスト	直径 3 μm未満、長さ 5 μm以上、長さ と直径比 3 : 1 以上		
定量限界	5 0 f/l	0. 5 f/l	0. 3 f/l

処理を行う吹付けアスベストの仕様等

材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲
		※図示

処理工法

※除去工法（図形化 ・ 行う）
・ 封じ込め工法
劣化の著しい部分、下地との接着が不良部分については改修標準仕様書9.1.3により除去し、粉じん飛散防止処理剤を用いて封じ込め処理を行う
封じ込めの工法は施工業者の仕様により、除去物および汚染物質の処理等は改修標準仕様書9.1.3 (b) (2) による
なお、施工にあたっては、改修標準仕様書9.1.2除去工事共通事項を適用する。
・ 囲い込み処理

施工調査等 ※行う ・

専門工事業者が工事に相応した技術を有することを証明する資料

「吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術」（民間開発建設技術の技術審査・証明事業認定規定）の証明書または、同等の技術を有することを証明する資料（監指）

石綿作業主任者
石綿障害予防規則に基づき、石綿作業主任者の選定を行う。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者または平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。

除去作業者
1. 施工業者より下記の科目について、アスベスト処理に関する衛生のための特別の教育を受けていること。(石綿則)
イ 石綿等の有害性
ロ 石綿等の使用状況
ハ 石綿等の粉じんの発散を抑制するための措置
ニ 保護具の使用法
ホ 前各号に掲げるもののほか、石綿等のばく露防止に関し必要な事項
2. 以下の健康診断を受診し、診断の結果、肺機能に異常がない者とする。
イ 労働安全衛生法に基づく一般健康診断（1年以内に受診）
ロ 石綿障害予防規則に基づく特殊健康診断（6カ月以内に受診）
ハ じん肺法に基づくじん肺健康診断（3年以内に受診）

2. アスベスト含有吹付け材の除去等

3. アスベスト含有保温材等の除去

処理を行うアスベスト保温材等の仕様等

材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲
		※図示

施工調査等 ※行う ・

アスベスト粉じん濃度測定 ※行わない ・ 行う

石綿作業主任者
石綿障害予防規則に基づき、石綿作業主任者の選定を行う。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者または平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。

表示・掲示
改修標準仕様書9.1.2(f)による表示・掲示を行う。

アスベスト含有建材除去後の仕上げ
※図示

断熱材
断熱材の種類 ・
断熱材の厚さ (mm) ・
施工箇所 ・ 図示 ・
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
外装材
種類（ ） 防火性能（ ）

既存外壁の措置
既存外壁仕上げ材の撤去 ・ あり ・ なし
下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない

4. アスベスト含有成形板の除去

処理を行うアスベスト成形板の仕様等

材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲
		※図示

施工調査等 ※行う ・

アスベスト粉じん濃度測定 ※行わない ・ 行う

石綿作業主任者
石綿障害予防規則に基づき、石綿作業主任者の選定を行う。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。

表示・掲示
改修標準仕様書9.1.2(f)による表示・掲示を行う。

アスベスト含有建材除去後の仕上げ
※図示

断熱材
断熱材の種類 ・
断熱材の厚さ (mm) ・
施工箇所 ・ 図示 ・
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
外装材
種類（ ） 防火性能（ ）

既存外壁の措置
既存外壁仕上げ材の撤去 ・ あり ・ なし
下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない

5. 外断熱改修工事

断熱材

断熱材の種類 ・
断熱材の厚さ (mm) ・
施工箇所 ・ 図示 ・
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
外装材
種類（ ） 防火性能（ ）

既存外壁の措置
既存外壁仕上げ材の撤去 ・ あり ・ なし
下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない

6. ガラス改修工事

複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ並びに複層ガラスの厚さ
・ 建築表による
断熱性能による区分
・ T 1 ・ T 2 ・ T 3 ・ T 4 ・ T 5 ・ T 6
日射取得性、日射遮蔽性による区分
・ G ・ S
乾燥気体の種類
・ 空気 ・ アルゴン

ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂またはメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※☆☆☆☆ ・

・断熱材打込み工法
断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
種類 ・
厚さ (mm) ・
施工場所 ・
・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類 ・ A種1 ・ A種1H ・
吹付け厚さ (mm) ・ 2 5 ・ 3 0
施工箇所
※窓回り等の断熱材補修部分、ルーフトレイン回りの床板下等、部分的に後張りとしなければならない箇所
・ 図示

・現場発泡断熱材（品質・性能）、（試験方法） ※建築材料等品質性能表による
・断熱材後張り工法
断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
種類 ・
厚さ (mm) ・
断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル
(材質 ・ 厚さ ・ mm)

植栽基盤および材料
・ 屋上緑化軽量システム
芝および地被類の樹種ならびに種類等 ※ 図示
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※ 図示
工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
かん水装置 ・ 設ける（別途機械設備工事による） ・ 設けない
既存保護層の撤去 ・ 行う

新植芝及び地被類の枯補償 ※引き渡し日から1年 ・

既設舗装の撤去 ・ 行う
既設舗装の再利用 ・ 行う

凍上抑制層
・ 適用する ※適用しない
厚さ (mm) ・ 150 ・
材料 ・
フィルター層
・ 適用する ※適用しない
厚さ (mm) 車道部 ※150 ・
歩道部 ※50 ・
材料 ・
路床安定処理 ・ 適用する (方法 ・) ※適用しない
砂の粒度試験 ・ 行う ※行わない
盛土用材料
・ A種 ※B種G 図 ・ C種G 図 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土G 図

路床土の支持力比 (C B R) 試験 ・ 行う ※行わない
現場 C B R 試験 ・ 行う ※行わない
路床の締固め度試験 ・ 行う ※行わない

舗装の種類

舗装の種類	路盤の厚さ (cm)		路盤材料
	車道部	歩道部	
・アスファルト舗装	・ 10 ・ 15 ・ 25 ・ 35	10	※再生クラッシュラン G
・インターロッキングブロック舗装	・ 10 ・ 15 ・ 25	10	・クラッシュラン
・コンクリート平板舗装	—	10	—

透水性アスファルト舗装に用いる路盤材料は透水性の高いものとする

基層 (車道部) ・ 適用する ※適用しない (22.4.2)
材料 アスファルト ・ ストレートアスファルト ※再生アスファルト G (22.4.3)
骨材 ・ 砕石 ※アスファルトコンクリート再生骨材 G

加熱アスファルト混合物等の種類 (22.4.4) (表22.4.6)
表層 ※密粒度アスファルト混合物 (13)
・ 細粒度アスファルト混合物 (13)
基層 ※粗粒度アスファルト混合物 (20)

シールコート ・ 適用する ※適用しない (22.4.5)
アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※行わない (22.4.6)

舗 装

舗 装	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備 考
・コンクリート 平板舗装	※普通平板 (N) ・ カラー平板 (C) ・ 洗出平板 (W) ・ 縦石平板 (S)	※300角 ・	※60 ・	目地材 ※砂 ・ モルタル ・
・インターロッキング ブロック舗装	※普通ブロック ・ 透水性ブロック		車道部 ※ 8 0 歩道部 ※ 6 0 ・	色彩および表面加工 ※標準品 ・
・縦生ブロック			※80 ・ 100	

ジオテキスタイル
品質（ ） ※適用しない ・ 適用する (22.9.3)

※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・

7. 断熱材

断熱材

断熱材の種類 ・
断熱材の厚さ (mm) ・
施工箇所 ・ 図示 ・
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
外装材
種類（ ） 防火性能（ ）

既存外壁の措置
既存外壁仕上げ材の撤去 ・ あり ・ なし
下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない

8. 屋上緑化改修工事

断熱材

断熱材の種類 ・
断熱材の厚さ (mm) ・
施工箇所 ・ 図示 ・
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
外装材
種類（ ） 防火性能（ ）

既存外壁の措置
既存外壁仕上げ材の撤去 ・ あり ・ なし
下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない

9. 既設舗装の撤去および再利用

既設舗装の撤去 ・ 行う
既設舗装の再利用 ・ 行う

10. 路床

凍上抑制層
・ 適用する ※適用しない
厚さ (mm) ・ 150 ・
材料 ・
フィルター層
・ 適用する ※適用しない
厚さ (mm) 車道部 ※150 ・
歩道部 ※50 ・
材料 ・
路床安定処理 ・ 適用する (方法 ・) ※適用しない
砂の粒度試験 ・ 行う ※行わない
盛土用材料
・ A種 ※B種G 図 ・ C種G 図 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土G 図

路床土の支持力比 (C B R) 試験 ・ 行う ※行わない
現場 C B R 試験 ・ 行う ※行わない
路床の締固め度試験 ・ 行う ※行わない

舗装の種類

舗装の種類	路盤の厚さ (cm)		路盤材料
	車道部	歩道部	
・アスファルト舗装	・ 10 ・ 15 ・ 25 ・ 35	10	※再生クラッシュラン G
・インターロッキングブロック舗装	・ 10 ・ 15 ・ 25	10	・クラッシュラン
・コンクリート平板舗装	—	10	—

透水性アスファルト舗装に用いる路盤材料は透水性の高いものとする

基層 (車道部) ・ 適用する ※適用しない (22.4.2)
材料 アスファルト ・ ストレートアスファルト ※再生アスファルト G (22.4.3)
骨材 ・ 砕石 ※アスファルトコンクリート再生骨材 G

加熱アスファルト混合物等の種類 (22.4.4) (表22.4.6)
表層 ※密粒度アスファルト混合物 (13)
・ 細粒度アスファルト混合物 (13)
基層 ※粗粒度アスファルト混合物 (20)

シールコート ・ 適用する ※適用しない (22.4.5)
アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※行わない (22.4.6)

舗 装

舗 装	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備 考
・コンクリート 平板舗装	※普通平板 (N) ・ カラー平板 (C) ・ 洗出平板 (W) ・ 縦石平板 (S)	※300角 ・	※60 ・	目地材 ※砂 ・ モルタル ・
・インターロッキング ブロック舗装	※普通ブロック ・ 透水性ブロック		車道部 ※ 8 0 歩道部 ※ 6 0 ・	色彩および表面加工 ※標準品 ・
・縦生ブロック			※80 ・ 100	

ジオテキスタイル
品質（ ） ※適用しない ・ 適用する (22.9.3)

※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・

11. 路盤

舗装の種類

舗装の種類	路盤の厚さ (cm)		路盤材料
	車道部	歩道部	
・アスファルト舗装	・ 10 ・ 15 ・ 25 ・ 35	10	※再生クラッシュラン G
・インターロッキングブロック舗装	・ 10 ・ 15 ・ 25	10	・クラッシュラン
・コンクリート平板舗装	—	10	—

透水性アスファルト舗装に用いる路盤材料は透水性の高いものとする

基層 (車道部) ・ 適用する ※適用しない (22.4.2)
材料 アスファルト ・ ストレートアスファルト ※再生アスファルト G (22.4.3)
骨材 ・ 砕石 ※アスファルトコンクリート再生骨材 G

加熱アスファルト混合物等の種類 (22.4.4) (表22.4.6)
表層 ※密粒度アスファルト混合物 (13)
・ 細粒度アスファルト混合物 (13)
基層 ※粗粒度アスファルト混合物 (20)

シールコート ・ 適用する ※適用しない (22.4.5)
アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※行わない (22.4.6)

舗 装

舗 装	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備 考
・コンクリート 平板舗装	※普通平板 (N) ・ カラー平板 (C) ・ 洗出平板 (W) ・ 縦石平板 (S)	※300角 ・	※60 ・	目地材 ※砂 ・ モルタル ・
・インターロッキング ブロック舗装	※普通ブロック ・ 透水性ブロック		車道部 ※ 8 0 歩道部 ※ 6 0 ・	色彩および表面加工 ※標準品 ・
・縦生ブロック			※80 ・ 100	

ジオテキスタイル
品質（ ） ※適用しない ・ 適用する (22.9.3)

※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・

12. アスファルト舗装

基層 (車道部) ・ 適用する ※適用しない (22.4.2)
材料 アスファルト ・ ストレートアスファルト ※再生アスファルト G (22.4.3)
骨材 ・ 砕石 ※アスファルトコンクリート再生骨材 G

加熱アスファルト混合物等の種類 (22.4.4) (表22.4.6)
表層 ※密粒度アスファルト混合物 (13)
・ 細粒度アスファルト混合物 (13)
基層 ※粗粒度アスファルト混合物 (20)

シールコート ・ 適用する ※適用しない (22.4.5)
アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※行わない (22.4.6)

舗 装

舗 装	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備 考
・コンクリート 平板舗装	※普通平板 (N) ・ カラー平板 (C) ・ 洗出平板 (W) ・ 縦石平板 (S)	※300角 ・	※60 ・	目地材 ※砂 ・ モルタル ・
・インターロッキング ブロック舗装	※普通ブロック ・ 透水性ブロック		車道部 ※ 8 0 歩道部 ※ 6 0 ・	色彩および表面加工 ※標準品 ・
・縦生ブロック			※80 ・ 100	

ジオテキスタイル
品質（ ） ※適用しない ・ 適用する (22.9.3)

※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・

13. ブロック系舗装

舗 装

舗 装	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備 考
・コンクリート 平板舗装	※普通平板 (N) ・ カラー平板 (C) ・ 洗出平板 (W) ・ 縦石平板 (S)	※300角 ・	※60 ・	目地材 ※砂 ・ モルタル ・
・インターロッキング ブロック舗装	※普通ブロック ・ 透水性ブロック		車道部 ※ 8 0 歩道部 ※ 6 0 ・	色彩および表面加工 ※標準品 ・
・縦生ブロック			※80 ・ 100	

ジオテキスタイル
品質（ ） ※適用しない ・ 適用する (22.9.3)

※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・

14. 舗装の平たん性

※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・

年度別

R6

令和 6年 6月

分
類
番
号

第一分類

第二分類

第三分類

審
査

審
査

公立大学法人 福井県立大学

工事名称

永平寺キャンパスゲートブリッジ塗装改修工事

図面名称

建築改修工事特記仕様書(その5)

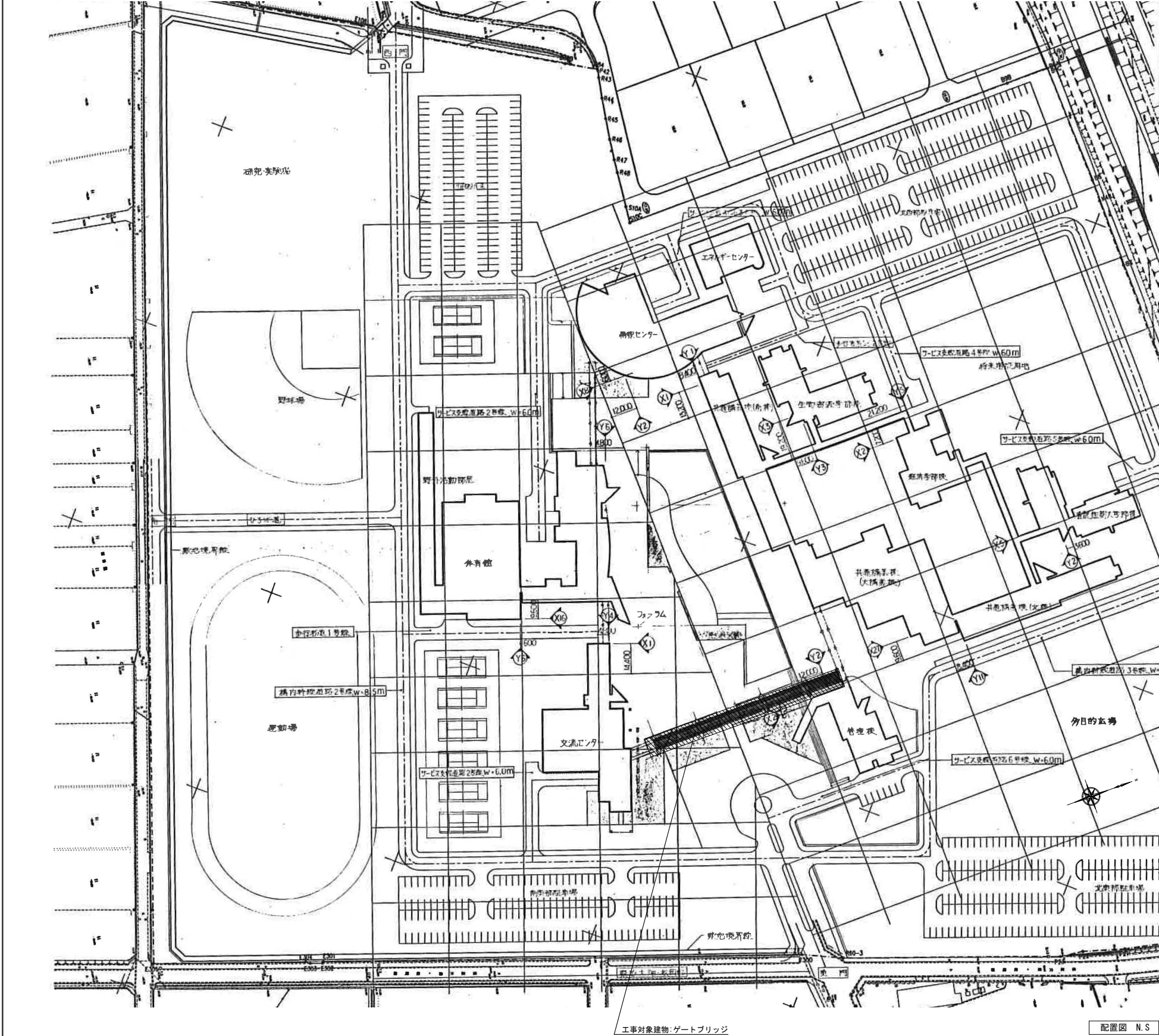
縮 尺

N.S

図面番号

A-05

A1 : 原寸
A3 : 50%縮小図



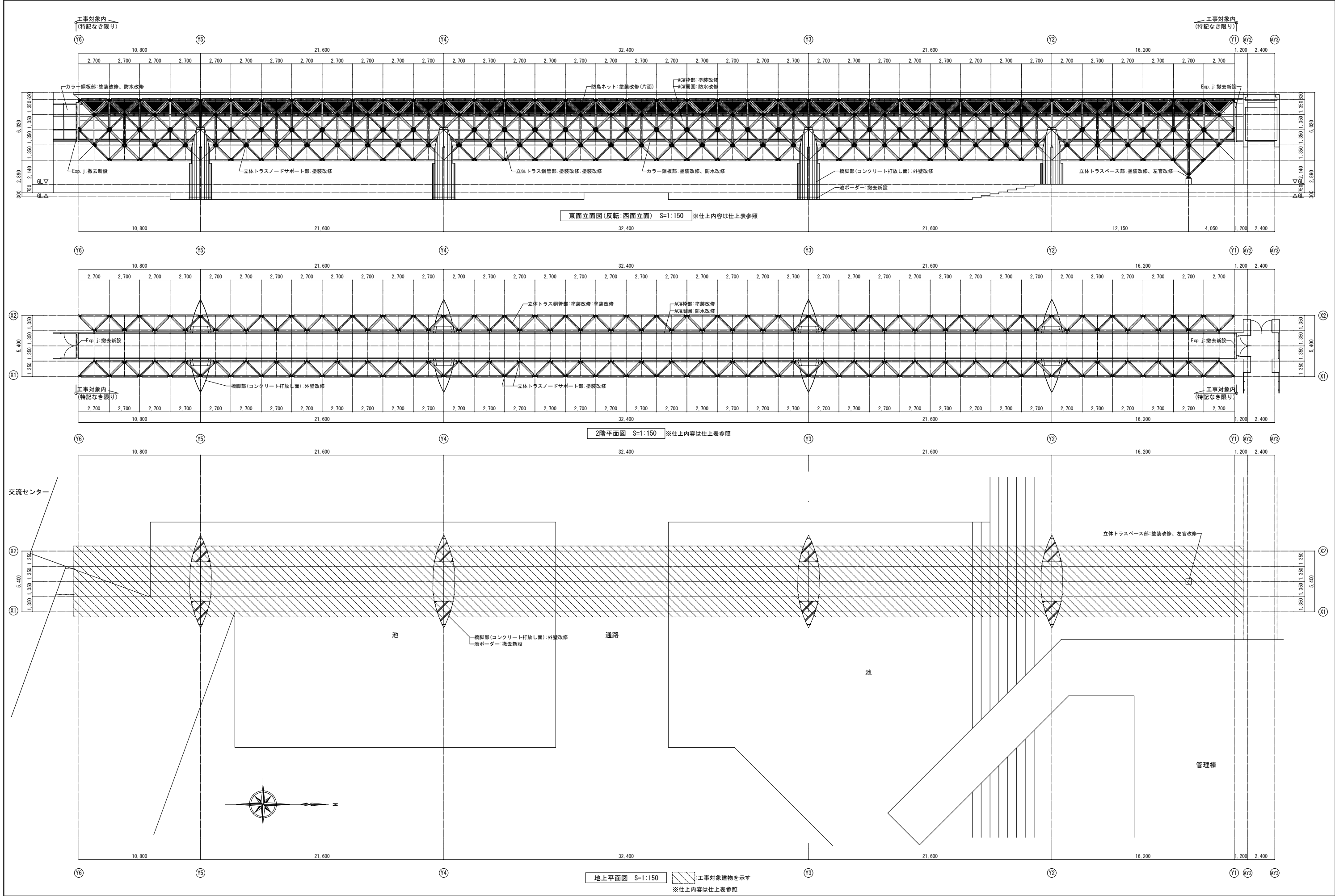
外部仕上表		
部位	工法	内容
立体トラスノードサポート部	塗装改修 (防鳥ネット部:片面)	下地調整(鉄鋼面 RA種(現場ブラスト))、 下塗り1(有機ジンクリッチペイント)、 下塗り2(変成エポキシ樹脂プライマーA種)、 耐候性塗料塗り(鉄鋼面 1級 ふっ素樹脂塗料 A種)
立体トラス鋼管部	塗装改修 (防鳥ネット部:片面)	下地調整(鉄鋼面 RB種)、 下塗り1(有機ジンクリッチペイント)、 下塗り2(変成エポキシ樹脂プライマー A種)、 耐候性塗料塗り(鉄鋼面 1級 ふっ素樹脂塗料 A種)
立体トラスベース部	塗装改修 左官改修 防水改修	鉄モルタル:欠損部補修、塗膜防水 下地調整(鉄鋼面 RA種(現場ブラスト))、 下塗り1(有機ジンクリッチペイント)、 下塗り2(変成エポキシ樹脂プライマーA種)、 耐候性塗料塗り(鉄鋼面 1級 ふっ素樹脂塗料 A種)
防鳥ネット	塗装改修(片面)	下地調整(アルミ用塗装剥離材)、 下塗り(アルミ用プライマー)、 アルミ用ふっ素樹脂塗料塗り
ACW枠部	塗装改修	下塗り(アルミ用プライマー)、 アルミ用ふっ素樹脂塗料塗り
ACW周囲	防水改修	シーリング撤去新設
カラー鋼板部	塗装改修 防水改修	下地調整(鉄鋼面 RC種)、 耐候性塗料塗り(鉄鋼面 1級 ふっ素樹脂塗料 B種) 目地シーリング打替え(MS-2)
デッキプレート裏部(梁、縁部共)	塗装改修	下地調整(重鉛めつき鋼面 RC種)、 下塗り(変成エポキシ樹脂プライマー A種)、 耐候性塗料塗り(重鉛めつき鋼面 1級 ふっ素樹脂塗料 A種)
橋脚部(コンクリート打放し面)	外壁改修	高圧洗浄(15~30MPa) 外壁改修(劣化部調査、報告書作成、ひび割れ部改修工法、欠損部改修工法) ナノシリコンコート(ひび割れ幅0.3mm未満)
池ポルダー	撤去新設	モルタル撤去、 ラス防水モルタル塗り
Exp. J	撤去新設	Exp. J(勾配外壁/勾配外壁) 撤去:アルミ製、クリアランス100(耐火仕様) Exp. J(勾配外壁/勾配外壁) 新設:アルミ製、クリアランス100(耐火仕様) 止水板 止水シート 周囲シーリング Exp. J(外壁/外壁) 撤去:アルミ製、クリアランス100(耐火仕様) Exp. J(外壁/外壁) 新設:アルミ製、クリアランス100(耐火仕様) バックアップ 止水シート 周囲シーリング Exp. J(軒裏/軒裏) 撤去:アルミ製、クリアランス100(耐火仕様) Exp. J(軒裏/軒裏) 新設:アルミ製、クリアランス100(耐火仕様) 周囲シーリング

※防鳥ネット内部は別途次期工事とする。防鳥ネットに係るノードサポート及び鋼管部は原則片面施工とするが、次期工事で確実に施工が終了される範囲とし、施工手順について監督職員と協議を行うこと。

内部仕上表			
室名	天井	廻縁	その他
廊下(交流センター側)	DR19.0 撤去(下地撤去しない) DR19.0 張り 新設	塩ビ製	Exp. J(床/床) 撤去新設:アルミ製、クリアランス100(耐火仕様) Exp. J(壁/壁) 撤去新設:アルミ製、クリアランス100 Exp. J(天井/天井) 撤去新設:アルミ製、クリアランス100 アルミパネル:変形、補修
廊下(管理棟側)	—	—	Exp. J(床/床) 撤去新設:アルミ製、クリアランス100(耐火仕様) Exp. J(壁/壁) 撤去新設:アルミ製、クリアランス100 Exp. J(天井/天井) 撤去新設:アルミ製、クリアランス100

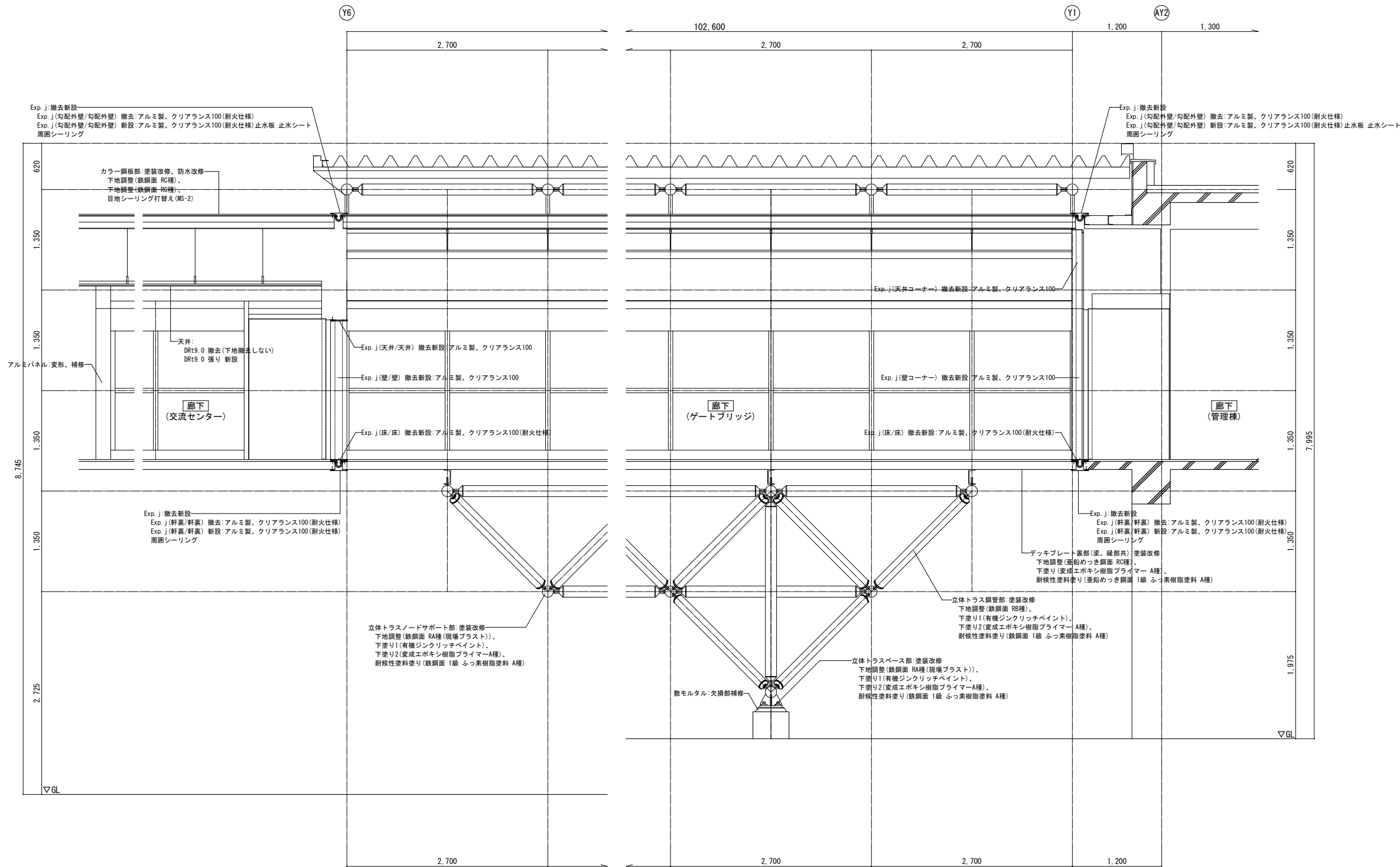


年度別 R6 令和6年6月	公立大学法人 福井県立大学				KMR 株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県 (L) 115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一	工事名称 永平寺キャンパスゲートブリッジ塗装改修工事		図面番号 A-06
	第一分類	第二分類	第三分類	審 査		図面名称 配置図、付近見取図、仕上表	縮尺 N.S	



年度別		公立大学法人 福井県立大学				株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県 (L) 115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一	工事名称 永平寺キャンパスゲートブリッジ塗装改修工事		図面番号 A-07
令和 6年	6月	分類番号	第一分類	第二分類	第三分類	審査	設計	図面名称 平面図・立面図	縮尺 1:150

A1 : 原寸
A3 : 50%縮小図



年度別 R6		公立大学法人 福井県立大学					K M R  株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県 (L) 115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一					工事名称 永平寺キャンパスゲートブリッジ塗装改修工事			図面番号 A-09
												図面名称 矩計図(2)		縮尺 1:30	
令和 6年 6月		分類番号	第一分類	第二分類	第三分類	審査									

A1 : 原寸
A3 : 50%縮小図

